

現代人の日常生活を支える
日々の仕事に誇り

ITの黎明期、父は鉄道の座席予約システム「マルス」と格闘していた。

「僕がこの世界に入ったのは、父の背中を見ていたからです。みどりの窓口のシステム創りに関わった父と同じ世界に進み、社会貢献するのは子どもの頃からの夢でした」

大学の研究テーマは「プログラミングレスでのシステム構築手法」。社会人になっても、当時の研究と直結する業務を行ってきた。

「交通、金融、電力など様々な社会インフラで弊社の製品が活躍しています。日常のいたる所で、弊社の製品が使われていると実感するのは誇らしいです。現在、ITバブルは崩壊したといわれるけれど、これからは、世の中に溢れた情報を如何に活用して、新しい価値を創造するかの時代。弊社の総合力を活かして、常にお客様に新しい価値を提供し続けていきたいです」

明大明治の中高時代も、部活はコンピュータ部だったというIT戦士。紫紺のたすきを次世代の社会につながるべく、日々奮闘中である。

情報科学科

情報基礎理論、コンピュータのソフト・ハードウェア、情報システムに関する教育・研究を展開し、次世代の技術者を育成。

株式会社日立製作所
ITビジネスサービス本部

志川 太一さん

TAICHI SHIKAWA

明治大学付属明治中学、高等学校に学び、2008年、大学院理工学研究科修士課程修了。父と同じ日立製作所に入社し、ITプラットフォーム事業本部でソフトウェア開発を行ってきた。14年10月に経営情報システム本部情報活用推進部に異動となった。同窓生と集まると、最後はスクラムを組んで校歌を歌うのが定番という。



清里セミナーハウスでのゼミ合宿の集合写真。当時は今よりもふっくらしていたが、現在はひたすら泳いで健康管理を行う。

ITバブル崩壊後だからこそ
新たな伸びしろを信じて挑戦したい

